

体育専攻学生のスポーツ価値意識に関する国際比較研究

—日本・韓国・中国を対象に—

浅 沼 道 成

(1992年9月1日受理)

The International Survey on Sport Attitudes
among Students of Physical Education Course

— Japan, Korea, China —

Michinari Asanuma

目 的

著者ら¹⁾は「単科の体育大学や体育学部においてスポーツの競技力向上がどの程度可能なのか」というテーマのもとに一連の調査研究を行ってきた。具体的には、体育専攻の学生を生活実態、障害の実態、スポーツに対する態度の3つの側面から調査を行い分析してきた。本研究はこの中でもスポーツに対する態度、特にスポーツ価値意識に絞った一連の研究に位置する²⁾。

上杉はスポーツ価値意識に関する一連の研究の中で、分析の枠組としてスポーツ価値意識の4種類(アゴン型、世俗内禁欲型、レクリエーション型、レジャー型)を提示している。特に一般大学生のスポーツ価値意識の研究³⁾では、林の数量化Ⅲ類によるパターン分析を行い、「世俗内禁欲型」「レジャー型」という明確な価値意識と「中庸型」という曖昧

1) 著者ら鹿屋体育大学の中に「鹿屋体育大学教育研究会」を設立し、おもに体育大学における競技力の向上をテーマとして研究活動を継続している。その成果として、1991年に「体育専攻学生の生活実態とスポーツ意識についての調査」、1992年に「日本・中国・韓国の体育専攻学生の生活実態とスポーツ意識についての調査」という報告書を刊行している。

2) 著者は、体育専攻学生のスポーツ価値意識に関する以下の研究を進めてきた。浅沼：体育専攻学生のスポーツ価値意識に関する研究，体育・スポーツ社会学研究9，道和書院，1990，P.23-39。浅沼，森：体育専攻学生のスポーツ価値意識に関する研究(Ⅱ)，鹿屋体育大学研究紀要，1991，P.111-118。浅沼：体育専攻学生におけるスポーツ価値意識の変容に関する研究，鹿屋体育大学研究紀要，1992，p.57-64。

3) 上杉：大学生のスポーツ価値意識について(5)，香川大学教育学部研究報告Ⅰ-67，1986。

な価値意識を抽出した。また、同じ方法で体育教師を対象に行った研究⁴⁾では、明確な価値意識として唯一「世俗内禁欲型」を抽出した。著者はこの研究を受けて、同じ方法で日本における体育専攻学生の調査研究を報告し、その中で明確な価値意識として「世俗内禁欲型」を抽出した⁵⁾。この一連の結果は、方法論的には問題は残っているが多くの知見を与えてくれた⁶⁾。重要なものとしては体育教師や体育教師を目指している体育専攻学生が「世俗内禁欲型」という画一的なスポーツ価値意識を持っているという実態である。すなわち、特定の価値意識のもとから体育の教育が行われているという問題点である。これはとりまおさず、現代社会の多様化、個性化の時代には適応していけないのではないかと考えられた。また、著者は事例的ではあったが体育専攻学生においてスポーツ価値意識の縦断的な検討を行った⁷⁾。入学時とその2年後の3年生時を縦断的に比較した結果、多少ではあるが価値意識の変容(多様化)の傾向がみられた。すなわち、画一的な価値意識が大学生活(教育も含む)の中で多様化する傾向にあるということがわかった。

以上の一連の研究から次の段階として、日本の体育専攻学生のスポーツ価値意識を国際比較しようと考えた。国際比較研究とは、「複数国から収集したデータの類似性、相違性の検証を通じて、社会の現実(social reality)を知るためのアプローチ⁸⁾」であり、日本の現実を捉えるためには有効な手段となる。そこで、本研究では隣接する東アジアにおける日本と並ぶスポーツ先進国である中国と韓国を対象に、日本の体育専攻学生のスポーツ価値意識を比較検討することにした。これによって、改めて日本の体育専攻学生のスポーツ価値意識を捉え直すことができるものと考えた。

方 法

1. 分析枠組

体育専攻学生のスポーツに対する価値意識は多様化しているものと考えられる。その中で、スポーツ価値意識(以下価値意識と記す)を画一的に捉えることは非常に難しいこと

4) 上杉：体育教師のスポーツ価値意識，香川大学教育学部研究報告I-69，1987。

5) 浅沼(1990)，前掲論文。

6) 上杉はこの一連の研究方法による価値意識のパターン分類の中で、「中庸型」という曖昧な価値意識が抽出されたことから、以後の研究では同じ分析枠組に対して単純な二者択一的方法を採用している(上杉：大学生のスポーツ価値意識のパターンとその関連要因の分析，体育・スポーツ社会学研究6，道徳書院，1987，P.195-213.)。しかし，本研究では先行の日本における調査が上杉の多変量解析(林の数量化Ⅲ類)に対する質問項目を採用しているため，本調査でもこれと同じ質問項目を採用して分析した。

7) 浅沼(1992)，前掲論文。

8) 山口：日本人のスポーツ観，『スポーツ社会学講義』，大修館書店，1988，P62。

であるが、比較検討を行うために本研究でも上杉の「4類型」を援用した。この4類型とは、「どのようにスポーツに取り組むかという選択の軸（禁欲性と即時性志向に関わる軸）」と「どのようにスポーツを意義づけるかという選択に関わる軸（自己目的性と手段性志向に関わる軸）」を直行させてできる4つの価値意識の型からなっている⁹⁾。

2. データ

1989年に日本の体育専攻学生に実施した調査で用いた調査用紙を、それぞれの母国語に翻訳し、1990年12月から1991年2月の期間に郵送法によって調査を実施した¹⁰⁾。表1はこの調査における有効解答者数である。なお、本研究では統計的処理の関係上、分析者数により多少の変動がみられている。本研究ではこの調査でえられたデータの一部を利用した。また、日本のデータは1989年の調査でえられたものを利用した。

表1 サンプル

	男子	女子
日本(N=1020)	71.8	28.2
韓国(N=863)	69.5	30.5
中国(N=484)	73.2	26.8

価値意識のデータの内容は「禁欲性」「即時性」「自己目的性」「手段性」の4つの志向性に関わる質問に対して、5-「強くそう思う」、4-「そう思う」、3-「どちらとも言えない」、2-「そう思わない」、1-「全くそう思わない」の5段階で解答してもらった（5段階評定法）ものである。

9) 手段性

即時性	[レクリエーション型] 即時的なスポーツ欲求の充足過程を通して何らかの外在的目的を達成しようとするスポーツ価値意識	[世俗内禁欲型] 禁欲的鍛錬をへたスポーツ欲求の充足過程を通して何らかの外在的目的を達成しようとする価値意識	禁欲性
	[レジャー型] 即時的にスポーツ欲求そのものを充足しようとするスポーツ価値意識	[アゴン型] 禁欲的鍛錬をへてスポーツ欲求そのものを充足しようとするスポーツ価値意識	
自己目的性			

上杉の初期の論文では、左図の分析枠組を採用していたが最近の論文の中では「自己目的性」を「遊戯性」に「禁欲性」を「世俗性」に変更しているが、基本的な枠組みに変更はない。

スポーツ価値意識の四類型

10) 韓国では2校の師範大学と3校の体育大学から、中国では4校の体育学院から調査用紙の返送があった。調査は基本的に体育専攻学生の1年生と3年生が均等になるように、それぞれの大学の研究協力者に依頼し実施していただいた。

3. 手順

価値意識について以下の手順で比較検討をしていく。

- ①解答パターンを林の数量化Ⅲ類（外的基準を持たない分類の方法）によって分類し比較する。この方法は上杉が一般大学生や体育教師の価値意識の分析に用いた方法である。
- ②価値意識の4類型を比較する。この場合、それぞれの価値意識を構成している4つの志向性に対して「強く思う」「そう思う」と答えた肯定群に1点だけを与え、その合計点を尺度とする。また、4類型に対してそれぞれの志向性からも検討を加え、この場合、それぞれの志向性の3つの質問に対して5段階で答えてもらったその得点の平均値を指標とする。

また、前回の報告¹¹⁾では入学方法（推薦—一般）、性別、学年、大学（国立—私立）という属性の検討から「世俗内禁欲型」が推薦、男子、1年生、私立に多少高い傾向がみられた。そこで本研究の国際比較において、特に入学方法に注目して検討を加えたい。その理由は、日本・韓国・中国で競技スポーツを中心とした推薦入学が行われており、これらの状況から入学方法という属性の違いによって価値意識が異なると考えたためである。

結果及び考察

1. スポーツ価値意識のパターン分類

① 日本

表2は日本における林の数量化Ⅲによる固有値を示し、表3はそのカテゴリー・スコアである。また、図1はそのカテゴリー・スコアをプロットした散布図であり、その記号は表3における質問項目の（ ）内の記号と対応している。

表2 固有値（日本）

	I 軸	II 軸
固有値	0.342	0.243
相関係数	0.584	0.493
累積比率(%)	8.5	14.6

11) 浅沼(1990), 前掲論文。

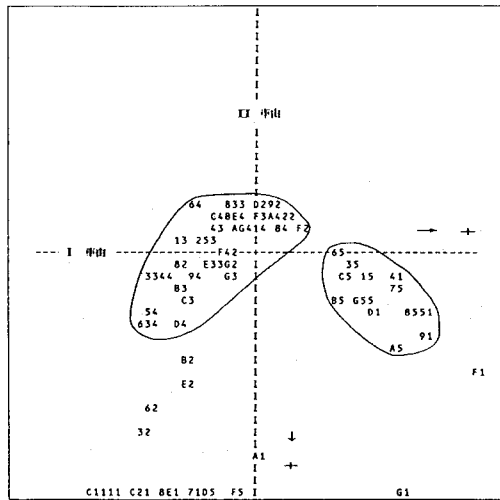


図1 日本のカテゴリー・スコアの散布図

次に価値意識のパターンについては「禁欲性」と「手段性」の質問に「強くそう思う」と答え、「即時性」と「自己目的性」の質問に「全くそう思わない」と答えたカテゴリーのパターンがI軸の正の方向に見られ「世俗内禁欲型」を示すパターンと考えられる。また、原点を取り巻くように集まっているパターンは、それぞれの質問に「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」と答えたカテゴリーが集まっており、上杉の命名した「中庸型」を示す価値意識のパターンと考えた。それ以外のパターンはみられなかった。

② 韓国

表4は韓国における固有値を示し、表5はそのカテゴリー・スコアである。また、図2はそのカテゴリー・スコアをプロットした散布図である。

表4 固定値(韓国)

	I軸	II軸
固有値	0.303	0.219
相関係数	0.551	0.468
累計比率(%)	7.6	13.0

軸の解釈をすれば、I軸では正の方向にそれぞれの質問に「強くそう思う」あるいは「全くそう思わない」という明確な解答のカテゴリーが集まっており、「明確な志向性」を弁別する軸と考えられる。また、II軸では固有値が低いですが、正の方向に「禁欲性」「手段性」を肯定し「自己目的性」「即時性」を否定するカテゴリーが集まっており、「世俗内禁欲性

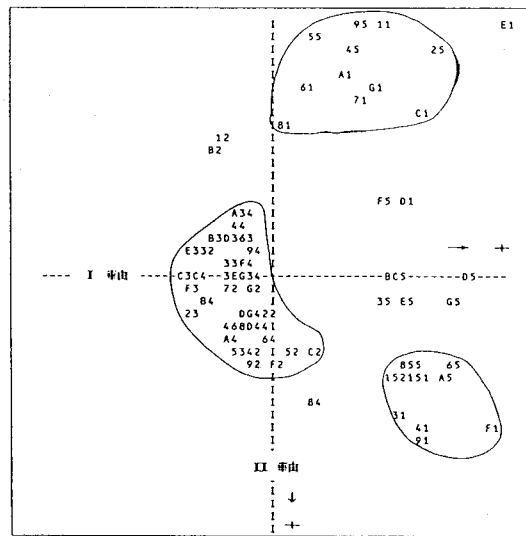


図2 韓国のカテゴリー・スコアの散布図

「レジャー性」を弁別する軸と解釈される。

次に価値意識のパターンについては、I軸とII軸の正の空間に「禁欲性」と「手段性」の質問に「強くそう思う」と答え、「即時性」と「自己目的性」の質問に「全くそう思わない」と答えたカテゴリーのパターンがみられ「世俗的禁欲型」を示すパターンと考えられる。また、I軸が正、II軸が負の空間には「即時性」と「自己目的性」の質問に「強くそう思う」と答え、「禁欲性」と「手段性」の質問に「全くそう思わない」と答えたカテゴリーのパターンがみられ「レジャー型」を示すパターンと考えられる。

③ 中国

表6は中国における固有値を示し、表7はそのカテゴリー・スコアである。また、図3はそのカテゴリー・スコアをプロットした散布図である。

表6 固有値(中国)

	I 軸	II 軸
固有値	0.230	0.197
相関係数	0.480	0.444
累積比率(%)	5.8	10.7

軸の解釈をすれば、I軸は韓国と同様の「明確な志向性」を弁別する軸と考えられる。また、II軸は正の方向に「禁欲性」「手段性」を否定し、「自己目的性」「即時性」を肯定

質問項目	志向性	カテゴリー	N=999	I 軸	II 軸	質問項目	志向性	カテゴリー	N=999	I 軸	II 軸
5 (5)	即時性	1	14.6%	2.32	0.80	11 (B)	手段性	1	0.4%	-2.31	4.86
		2	41.7	0.29	-0.67			2	3.0	-1.11	1.37
		3	30.3	-0.81	-0.32			3	9.6	-1.16	0.42
		4	10.0	-1.56	0.81			4	49.3	-0.53	-0.62
		5	3.4	-1.72	5.27			5	37.7	1.11	0.54
6 (6)	禁欲性	1	0.9	-1.74	10.30	12 (C)	手段性	1	0.4	-2.44	6.90
		2	3.8	-1.64	1.94			2	2.0	-1.79	3.77
		3	9.2	-1.68	0.92			3	9.7	-1.12	0.63
		4	34.6	-0.98	-0.70			4	45.9	-0.74	-0.66
		5	51.5	1.11	-0.01			5	42.0	1.17	0.33
7 (7)	禁欲性	1	8.1	-1.02	3.09	13 (D)	自己目的性	1	20.1	1.57	0.76
		2	22.9	-0.81	0.09			2	47.2	-0.12	-0.70
		3	27.9	-0.42	-0.68			3	25.1	-0.71	0.08
		4	20.8	0.03	-0.82			4	5.5	-1.24	0.95
		5	20.3	1.85	0.44			5	2.1	-0.77	4.90
8 (8)	禁欲性	1	5.7	-1.38	3.68	14 (E)	手段性	1	0.6	-1.33	6.14
		2	19.8	-1.24	0.13			2	5.1	-1.09	1.59
		3	29.1	-0.48	-0.77			3	17.1	-0.79	0.14
		4	28.0	0.32	-0.52			4	51.7	-0.35	-0.55
		5	17.4	2.14	0.76			5	25.5	1.49	0.55
9 (9)	自己目的性	1	12.0	2.32	1.01	15 (F)	自己目的性	1	4.6	3.05	1.47
		2	30.6	0.24	-0.78			2	21.6	0.58	-0.52
		3	36.3	-0.34	-0.46			3	32.7	-0.14	-0.62
		4	15.9	-0.99	0.29			4	33.9	-0.57	0.06
		5	5.2	-1.31	4.54			5	7.2	-0.36	3.16
10 (A)	手段性	1	5.5	-0.13	2.53	16 (G)	手段性	1	0.8	1.98	5.72
		2	28.6	-0.47	0.01			2	6.9	-0.52	0.18
		3	27.2	-0.37	-0.40			3	22.6	-0.50	0.27
		4	28.8	0.20	-0.54			4	50.3	-0.29	-0.49
		5	9.9	1.90	1.20			5	19.4	1.42	0.67

表5 韓国のカテゴリー・スコア

質問項目	志向性	カテゴリー	N=999	I 軸	II 軸	質問項目	志向性	カテゴリー	N=999	I 軸	II 軸
1 (1)	禁 欲 性	1	2.6%)	1.40	-4.34	9 (9)	自 己 目 的 性	1	11.9%)	1.88	1.97
		2	12.5	-0.79	-1.86			2	28.1	-0.45	0.98
		3	12.1	-1.31	0.00			3	17.0	-0.48	-0.21
		4	44.7	-0.43	0.04			4	32.8	-0.40	-0.43
		5	28.1	1.47	1.17			5	10.2	1.12	-3.27
2 (2)	即 時 性	1	14.2	1.66	1.25	10 (A)	手 段 性	1	11.5	0.92	-2.50
		2	37.0	-0.21	0.50			2	23.1	-0.62	0.05
		3	14.4	-1.18	0.38			3	16.8	-0.65	-0.93
		4	27.7	-0.47	-0.83			4	32.7	-0.67	0.76
		5	6.7	2.12	-2.79			5	15.9	2.23	1.13
3 (3)	禁 欲 性	1	4.9	1.65	1.65	11 (B)	手 段 性	1	0.5	4.52	-7.32
		2	14.0	-1.02	-0.47			2	3.0	-0.94	-1.71
		3	10.9	-0.65	-0.35			3	5.4	-0.92	-0.67
		4	40.7	-0.65	-0.18			4	52.2	-1.01	0.23
		5	29.5	1.36	0.34			5	38.9	1.51	0.03
4 (4)	即 時 性	1	14.7	1.88	1.79	12 (C)	手 段 性	1	2.1	1.89	-2.08
		2	29.8	-0.40	0.88			2	6.5	0.46	0.91
		3	14.9	-0.71	0.56			3	5.4	-1.34	-0.03
		4	28.6	-0.64	-0.78			4	51.6	-1.06	0.00
		5	13.0	0.98	-2.89			5	34.4	1.60	-0.05
5 (5)	即 時 性	1	8.6	1.90	1.26	13 (D)	自 己 目 的 性	1	16.5	1.71	-1.10
		2	22.8	0.17	0.96			2	44.9	-0.53	0.43
		3	17.0	-0.58	0.88			3	17.4	-0.68	-0.57
		4	35.6	-0.54	-0.01			4	15.6	-0.42	0.57
		5	16.0	0.54	-2.95			5	5.6	2.50	0.00
6 (6)	禁 欲 性	1	17.7	0.40	-2.35	14 (E)	手 段 性	1	0.4	5.64	-7.25
		2	37.4	-0.59	0.57			2	7.0	-0.64	-0.13
		3	11.2	-0.46	-0.61			3	17.0	-1.17	-0.50
		4	22.5	-0.24	0.69			4	50.5	-0.40	0.11
		5	11.2	2.30	1.04			5	25.1	1.65	0.30
7 (7)	禁 欲 性	1	13.3	1.12	-2.29	15 (F)	自 己 目 的 性	1	5.8	2.75	1.78
		2	37.7	-0.70	0.18			2	15.9	-0.13	1.07
		3	10.2	-0.94	-0.55			3	16.0	-1.19	0.17
		4	23.5	-0.30	0.57			4	43.7	-0.48	-0.25
		5	15.3	1.84	1.02			5	18.6	1.40	-1.04
8 (8)	禁 欲 性	1	27.9	0.07	-1.91	16 (G)	手 段 性	1	8.8	1.34	-2.46
		2	37.9	-0.52	0.55			2	28.9	-0.44	0.12
		3	10.0	-0.50	-0.08			3	22.6	-0.52	0.07
		4	15.8	0.53	1.53			4	29.5	-0.37	0.48
		5	8.4	1.72	1.10			5	10.2	2.32	0.24

※ 質問10の度数は428, 質問11の度数は429

表7 中国のカテゴリー・スコア

質問項目	志向性	カテゴリー	N=999	I 軸	II 軸	質問項目	志向性	カテゴリー	N=999	I 軸	II 軸
1 (1)	禁 欲 性	1	5.0%)	-0.45	3.24	9 (9)	自 己 目 的 性	1	7.7%)	2.08	0.20
		2	11.6	-0.90	1.84			2	34.2	-0.29	-0.79
		3	25.3	-0.96	0.08			3	15.9	-0.60	0.10
		4	34.9	-0.20	-0.72			4	32.3	-0.53	0.21
		5	23.2	1.90	-0.64			5	9.9	2.10	1.70
2 (2)	即 時 性	1	34.2	1.31	-0.81	10 (A)	手 段 性	1	11.9	1.16	0.93
		2	40.6	-0.57	-0.61			2	19.3	-0.61	0.19
		3	14.9	-1.40	1.57			3	10.8	-1.14	1.00
		4	8.8	-0.32	2.74			4	38.9	-0.28	-0.62
		5	1.5	1.08	3.13			5	19.1	1.10	-0.09
3 (3)	禁 欲 性	1	1.5	0.04	6.54	11 (B)	手 段 性	1	2.7	0.87	4.83
		2	2.7	-1.53	3.79			2	11.9	-1.10	0.98
		3	4.7	-0.90	2.81			3	15.4	-0.75	0.14
		4	39.8	-0.93	-0.20			4	48.8	-0.49	-0.73
		5	51.3	0.89	-0.49			5	21.2	2.18	0.41
4 (4)	即 時 性	1	28.7	1.32	-0.49	12 (C)	手 段 性	1	2.4	0.17	4.17
		2	40.6	-0.39	-0.75			2	10.2	-1.56	1.68
		3	17.7	-0.78	0.39			3	14.9	-1.14	0.85
		4	9.9	-0.90	2.69			4	50.0	-0.38	-0.83
		5	3.1	0.23	3.48			5	22.5	2.30	0.08
5 (5)	即 時 性	1	25.8	1.35	-0.64	13 (D)	自 己 目 的 性	1	9.7	2.01	0.87
		2	33.1	-0.58	-0.69			2	42.5	-0.09	-0.90
		3	18.0	-0.93	0.48			3	25.6	-0.18	0.43
		4	16.1	-0.58	1.21			4	20.0	-0.84	0.72
		5	7.0	1.53	1.61			5	2.2	2.68	1.90
6 (6)	禁 欲 性	1	2.3	0.24	6.53	14 (E)	手 段 性	1	9.6	0.51	2.33
		2	7.4	-0.52	1.73			2	28.6	-0.84	0.17
		3	8.3	-1.12	1.42			3	21.4	-0.40	-0.78
		4	40.8	-0.99	-0.45			4	34.4	0.25	-0.54
		5	41.2	1.29	-0.51			5	6.0	3.20	1.34
7 (7)	禁 欲 性	1	9.7	0.75	2.26	15 (F)	自 己 目 的 性	1	3.2	0.62	2.70
		2	32.8	-0.84	-0.20			2	17.9	-0.18	-0.06
		3	21.4	0.15	-0.46			3	15.9	-0.78	-0.39
		4	20.3	-0.31	-0.25			4	50.9	-0.37	-0.40
		5	15.8	1.48	-0.03			5	12.1	2.68	1.56
8 (8)	禁 欲 性	1	7.8	-0.63	3.43	16 (G)	手 段 性	1	3.3	1.12	2.77
		2	20.4	-0.71	0.36			2	10.6	-0.50	1.22
		3	32.3	-0.67	-0.01			3	11.1	-0.58	-0.12
		4	26.4	0.35	-1.25			4	55.5	-0.51	-0.69
		5	13.1	2.44	-0.06			5	19.5	1.86	0.90

※ 質問10の度数は779

2. スポーツ価値意識の4類型

① 4類型の比較

図4は日本・韓国・中国における4類型の価値意識に対する肯定群の合計点の平均を示したものである。この図では6点に近づくほど明確な4類型の価値意識をもっていると考えた。

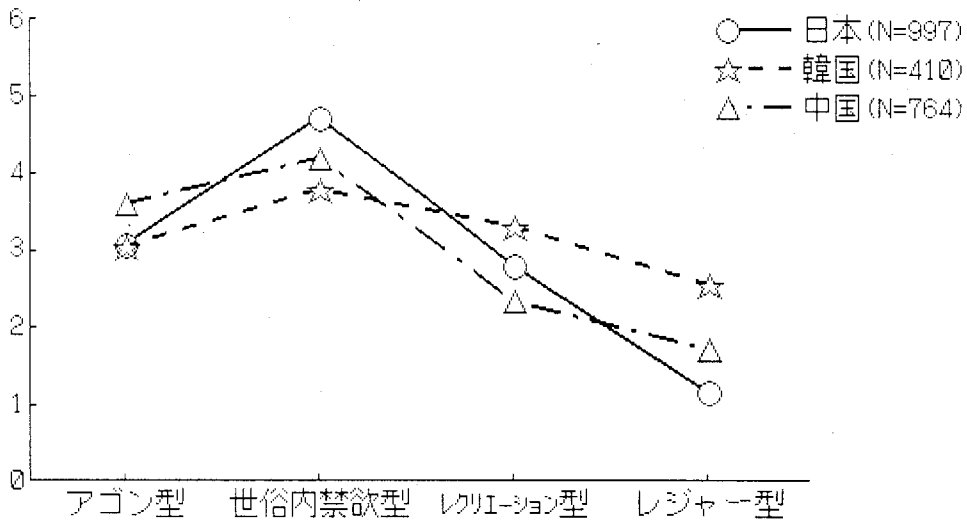


図4 4類型の比較

この図から日本では、韓国・中国よりも「世俗内禁欲型」の価値意識がもっとも高く、「レジャー型」がもっとも低い傾向にある。韓国ではどちらかというとも相対的に4類型の価値意識に大きな違いがみられない。しかし、日本・中国との比較では「レジャー型」に高い傾向がみられる。中国では「アゴン型」が日本・韓国よりも高い傾向がみられる。これらの傾向は図5、図6、図7から容易に裏付けられる。これらの帯グラフはそれぞれの価値意識の合計点に占める度数の割合を示し、0点は全くその価値意識を持たない割合を示したもので、6点は明確にその価値意識を持っている割合を示している（図では5点も表示してある）¹²⁾。

12) この帯グラフでは、各志向性の質問（全3問）において、たとえば「世俗内禁欲型」の5点とは「禁欲性」の2つの質問と「手段性」の質問全3問（逆のパターンも同様）に肯定的に答えた解答者の全体に占める割合である。この方法は単純に各価値意識の平均点の比較だけでは内実が見えにくいために示したものであるが、必ずしも各価値意識を構成している2つの質問に高い得点で解答したとしてもそれ以外の別の志向性との関連はわからない。あくまで一つの傾向を示しているに過ぎないことに注意したい。

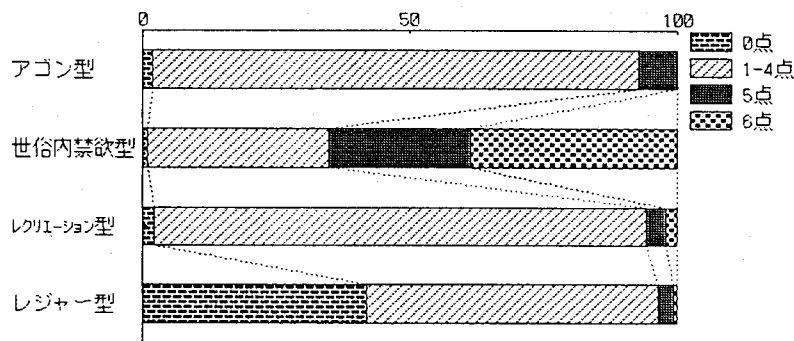


図5 日本

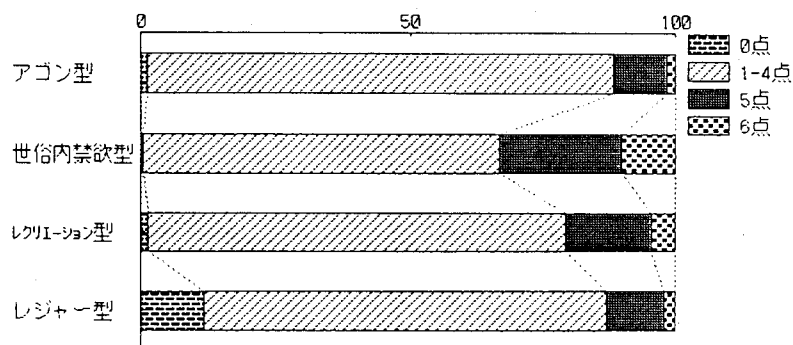


図6 韓国

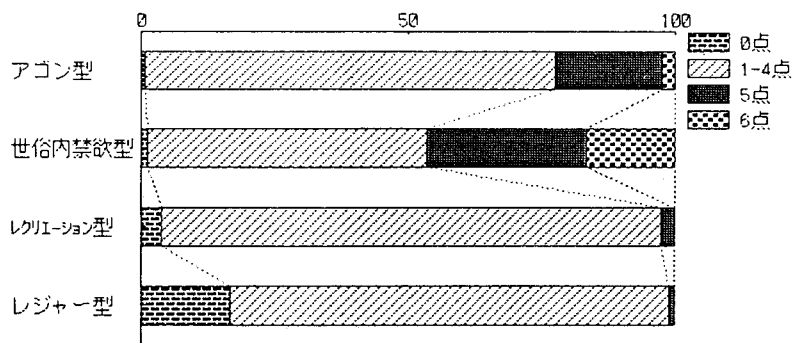


図7 中国

表8は入学方法別に示したものである。日本においては「アゴン型」が推薦入学者に低く ($P < 0.05$), 中国では「世俗内禁欲型」が推薦入学者に低い ($P < 0.05$) 傾向がみられる。また, 韓国においては推薦入学者に「世俗内禁欲型」が高く ($P < 0.01$), 「レクリエーション型」「レジャー型」が低い ($P < 0.05$, $P < 0.01$) 傾向がみられる。

表8 日本・韓国・中国における4類型の比較：入学方法

		アゴン型	世俗内禁欲型	レクリエーション型	レジャー型
日本	推薦(N=537)	2.981	4.737	2.855	1.099
	一般(N=460)	3.143	4.670	2.750	1.224
韓国	推薦(N= 71)	3.211	4.451	3.014	1.775
	一般(N=339)	2.997	3.634	3.363	2.726
中国	推薦(N=213)	3.502	4.075	2.282	1.709
	一般(N=551)	3.615	4.247	2.358	1.726

* P<0.05 ** P<0.01

② 4類型を構成する志向性の比較

図8は日本・韓国・中国における4つの志向性の合計点の平均値を示している。この図では5点に近づくほどその志向性を強く持っているとは判断される。

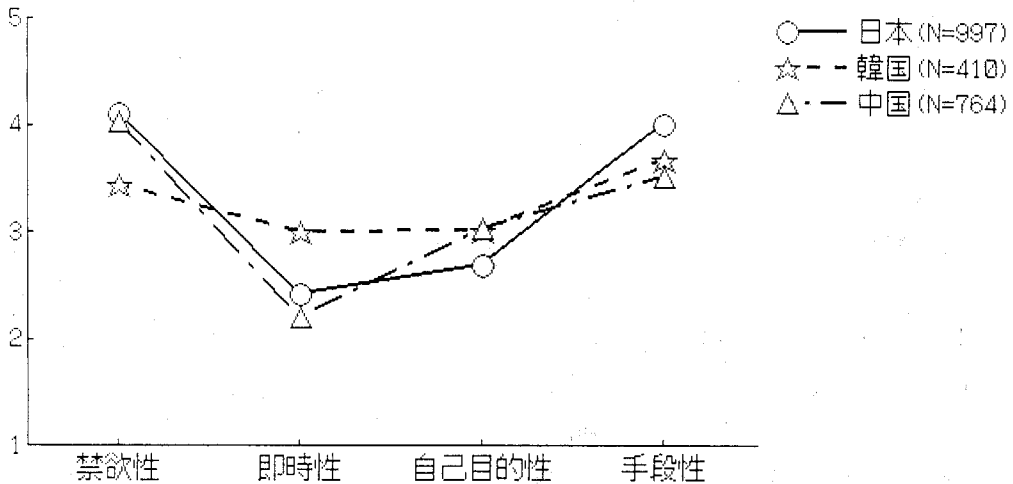


図8 志向性の比較

韓国では4つの志向性において日本や中国ほど大きな違いはみられないが、他の国と比較して「禁欲性」が低く、「即時性」が高い傾向にある。日本では「禁欲性」「手段性」が高く、「即時性」「自己目的性」が低い。特に他の国よりも「手段性」が高い傾向にある。中国では他の国と比較して「即時性」が低く、日本とは大きく韓国とは若干「自己目的性」が高く、「手段性」が低い傾向を示している。

入学方法では表9より、日本において「手段性」が推薦入学者に高く (P<0.01)、中

国では推薦入学者に低い ($P < 0.01$) 傾向がみられる。韓国では推薦入学者に「禁欲性」が高く ($P < 0.01$)、「即時性」「自己目的性」が低い ($P < 0.01$) 傾向がみられる。

表9 日本・韓国・中国における志向性の比較：入学方法

		禁欲性	即時性	自己目的性	手段性
日本	推薦 (N=537)	4.105	2.440	2.671	4.061
	一般 (N=460)	4.114	2.441	2.743	3.961
韓国	推薦 (N= 71)	3.977	2.465	2.610	3.793
	一般 (N=339)	3.320	3.132	3.107	3.664
中国	推薦 (N=213)	4.078	2.305	2.992	3.402
	一般 (N=551)	4.016	2.175	3.070	3.567

** $P < 0.01$

③ 考察

4 種類の比較では、日本・韓国・中国ともに「世俗内禁欲型」が相対的に高く、「レジャー型」が低いという傾向にあり、特に日本においては顕著であった。

日本では推薦と一般入学者の間で「アゴン型」に有意な違いがみられたが、これは高い「禁欲性」「手段性」の志向を示す中で、「手段性」において推薦入学者のほうが高いという有意な違いがあるためである。しかし、日本の体育専攻学生は推薦・一般入学者に関わりなく、スポーツに対して手段的に捉えている傾向があることがわかった。すなわち、推薦と一般入学者の間に若干の価値意識（手段性志向）の違いがあるということになる。

韓国では他の国と比較して「レジャー型」「レクリエーション型」が高く、「世俗内禁欲型」が低いといった特徴がみられた。また、推薦と一般入学者という属性の間には有意な違いがみられた。すなわち、推薦入学者に顕著な「世俗内禁欲型」が高く、「レクリエーション型」「レジャー型」が低いという傾向である。これは明確に韓国の体育専攻学生の中で推薦と一般入学者という属性の間で価値意識の違いがあることを意味している。また、表10、表11は課外活動（体育会）への所属とその理由を示しているが、これらの表より、韓国では推薦入学者のほとんど全員が競技力の向上を目指した課外活動に所属している。しかし、一般入学者において約3分の1だけが所属し、所属した理由の中でその約3分の2の学生が「健康や体力の維持」「余暇のレクリエーション」といった理由を持っていることもわかった。この実態から、韓国では体育専攻学生の中に価値意識の明らかに異なる集団が存在し、またその価値意識に影響を受けて競技スポーツに対する態度にも違いがみられていると考えられる。すなわち、推薦入学者のほとんどが競技スポーツを目指し、それを支える価値意識を強く持っているといえる。また、一般入学者では競技スポーツと強く

結びつかずそれを支える価値意識は弱いと考えられる。よって、この状況から韓国の中に「レジャー型」の価値意識が顕在した理由も説明できる。

表10 課外活動（体育会）への所属

		している	していない	していた
日本	推薦(N=549)	98.0	0	2.0
	一般(N=465)	95.5	1.5	3.0
韓国	推薦(N= 83)	83.1	7.2	9.7
	一般(N=354)	38.4	44.1	17.5
中国	推薦(N=231)	70.1	18.6	11.3
	一般(N=582)	5.3	90.6	4.1

表11 課外活動（体育会）に所属している理由

		就職	競技力 の向上	入学時 に既決	健康や体 力の維持	余のレクリ エーション	友人を つくる	その他
日本	推薦(N=527)	7.0	56.4	18.6	10.8	2.1	2.1	3.0
	一般(N=436)	3.9	57.1	13.3	15.8	1.4	3.9	4.6
韓国	推薦(N= 56)	25.0	23.2	39.3	7.1	0	0	5.4
	一般(N=115)	0	16.5	4.3	42.6	25.2	6.1	5.2
中国	推薦(N=109)	4.6	57.8	26.6	3.7	2.8	0	4.6
	一般(N= 25)	4.0	56.0	20.0	0	0	0	2.0

次に中国では他の国に比較して「アゴン型(自己目的性+禁欲性)」が高い傾向にあった。これは志向性からみると日本と比べて「自己目的性」が高いことによっている。すなわち、中国の体育専攻学生は日本よりスポーツそのものに価値を置いた意識が高いと考えられる。また、推薦と一般入学者の間に価値意識の違いはみられなかったが、表10より推薦入学者が課外活動に所属し、一般入学者のほとんどが所属していないという実態がみられる。これは韓国と異なり、中国の体育専攻学生では推薦と一般入学者という属性の間に価値意識の違いは明確にみられず、競技スポーツに対する態度が異なっているといえる。すなわち、中国の体育専攻学生は競技スポーツを支える価値意識を同じように持っているが、競技スポーツに関わっているのは一部の学生(推薦入学者)に限られている。これは国家的背景の影響を強く受けているものと考えられる。

日本の場合、推薦と一般入学者の間に価値意識の違いはみられず、ほとんど全員が課外

活動に所属し、また所属した理由にも違いはみられなかった。すなわち、日本の体育専攻学生は韓国や中国に比べ、ほとんど全員が世俗内禁欲的価値意識を持ちながら競技スポーツに関わっているといえる。これは、日本の中で体育専攻学生イコール競技スポーツ選手という認識を生み、また矛盾しながらも一致するところである。

ま と め

1. 日本の体育専攻学生は中国、韓国に比較して「世俗内禁欲型」の価値意識が一元的に支配的で、「レジャー型」の価値意識が非常に低かった。
2. 韓国では「世俗内禁欲型」と「レジャー型」がパターン分類され、前者の価値意識は推薦入学者に、後者の価値意識は一般入学者に多い価値意識と捉えられた。
3. 中国では日本と同様の価値意識の形態を示していたが、日本よりも「手段性」志向が低く「自己目的性」志向が高い傾向であった。

最後に、価値意識と課外活動との関連からまとめると、4種類の価値意識の中で「アゴン型」「世俗内禁欲型」が競技スポーツを支える価値意識であり¹³⁾、当然各国での推薦入学者に高い傾向がみられている。しかし一般入学者で比較すると、日本と中国は高いが韓国は低かった。このことより、韓国では一般と推薦入学者に価値意識の違いが確認された。その上、課外活動への所属とその理由において両者に明確な違いがみられた。次に日本と中国を比較すると、「アゴン型」「世俗内禁欲型」は同じように高かったが野外活動への所属に大きな違いがみられた。要するに、日本の一般入学者のほとんど全員が課外活動へ所属している（当然推薦入学者も）が、中国ではほとんど所属していなかった。これは中国の社会的背景において役割（一流競技スポーツ選手）分担が明確になされているためであろう。以上の点が日本と大きく異なっているところであった。

このような結果は、日本の大学スポーツの位置づけが不明瞭な現在、韓国、中国の状況が今後の日本の体育系大学の進む方向に示唆を与えてくれるものと考えられる。

13) 上杉：スポーツ価値意識のパターンとその規定要因に関する研究，研究成果報告書，科学研究費補助金（一般研究C），1990。